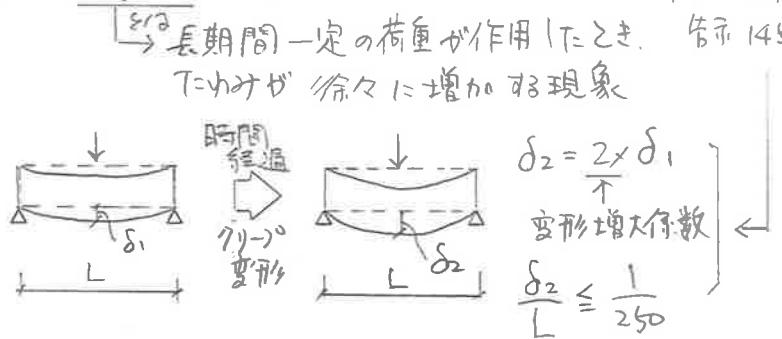


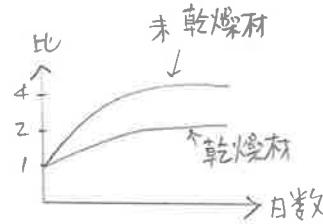
# 令和2年NO.27 不材

1. 木材のクリープによる変形 → 一般に気乾状態に比べて湿润状態のほうが大きい
2. 木材の腐朽に対する抵抗性 → 腐朽しやすい土台には、ひのきなどの耐朽性のある樹種を使用することが望ましい
3. 木材の含水率 → 水分を含むない木材とのものの質量に対する木材に含まれる水の質量の比率
4. 木材の繊維方向の基準強度 → 一般に圧縮に比べて引張のほうが大きい

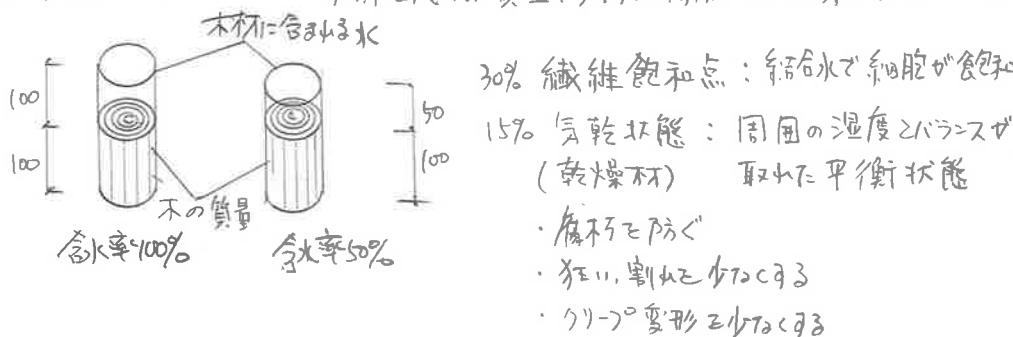
## 1. 木材のクリープによる変形



令82条第4号



## 3. 木材の含水率 → 木材とのものの質量に対する木材に含まれる水の質量の比率



## 2. 木材の腐朽に対する抵抗性

木材腐朽菌 → 木材の細胞壁を構成するセルロースを分解し、細胞壁が破壊

↓

樹木は進化の過程で様々な抗菌成分を生み出しているが、主に心材部分に蓄えることで、分解を止める

↓

抗菌成分は樹種によって種類や含有量が異なる

→ 耐朽性の高い樹種：ヒノキ、ヒバ、ベニヒバ、ケヤキ、クリ、ベニスギなどを使用

→ 防腐材を表面に付着、防腐材を木材内部に加工注入(木材内使用)

## 4. 木材の繊維方向の基準強度(F) 告示1452号

	圧縮	引張	曲げ
ベニスギ 1級	27.0	20.4	33.6
ひのき 1級	30.6	22.8	38.4 ( $N/mm^2$ )